学 位 記 番 号：　修士第５３号

氏名（本籍）：　本　田　可　奈　子（滋賀県）

学 位 の 種 類：　修士（看護学）

学位授与年月日：　平成１６年３月２５日

学位論文題目：　三次救急医療施設の外来における看護実践の内容

別紙様式３

論　文　内　容　要　旨

※整理番号	54	(ふりがな) 氏　　名	ほんだ　かなこ 本田　可奈子
修士論文題目	三次救急医療施設の外来における看護実践の内容		

研究目的

三次救急外来における看護師の実践の内容を、実践者の主観を通して明らかにする。

方法

質的記述的研究法を用いて三次救急外来に勤務する看護師 13 名に、半構成的インタビューを行った。

結果

得られたデータから、本研究のテーマに関して、意味解釈ができる最小の単位を抜き出した結果、1054 個となった。そして参加者の主観に焦点をあて、さらに最小単位に抜き出したところ、457 個のコードとなった。そのコードを一つ一つ比較し、属性について類似しているもの同士を集めた。その結果　13 個のサブカテゴリーが導かれ、さらにそこから【主体的に診療を介助する】【チーム医療をコーディネートをする】【患者の尊厳と権利を守る】の４個のカテゴリーが抽出された。

考察

得られた４つのカテゴリーによって、三次救急外来における看護実践の内容が認められた。看護師は救命が目的とされる救急外来で、【主体的に診療を介助】【チーム医療をコーディネート】【患者の尊厳と権利を守る】ことがなされていた。そして時間的余裕のない外来では【限られた時間を最大限に活用】することによって、前述の３つを同時進行に行っていた。ここで得られた実践内容は、看護師の基本的な行動であるが、これらを短時間の間に同時に行わなければならないことに救急外来での看護実践の特徴であり、また行うには熟練された臨床能力が必要であることが考えられた。

総括

本研究は、三次救急医療施設の外来における看護実践の内容を明らかにするために、看護師の主観を焦点に、質的帰納的方法で行った結果、４つの実践が見出されたが、その内容は、看護師として基本的なものであった。時間的余裕のない救急外来ではこれらを同時に行わなければならず、そこには熟練された臨床能力の必要性が示唆された。本研究では実践内容を明らかにしたことで終わったが、今後この明らかになった実践をもとに、これらを行うにあたって、どのような実践能力が使われているのか分析することにより、救急看護の構造化が行えると考える。
それによって、救急看護に携わる人材育成のプログラム作成の資料となり、看護の質に貢献できると考える。

（備考）１．研究の目的・方法・結果・考察・総括の順に記載すること。（1200 字程度）
２．※印の欄には記入しないこと。